# 問いが誘発する「創造的対応

今回の誌上研修も監修していただいた株式会社M-M-GUR-の安斎勇樹さんに 改めて「創造的対話」と、それを促す「問い」について伺いました。 創造性を引き出すワークショップデザインやファシリテーションの方法論について研究し、



# 生み出される「創造的対話 良質な問いによって、

が、こう「問い」を投げかけました。 さん(京都大学総合博物館 准教授 のデザイン』の共著者である塩瀬隆之 が切れかけていた子どもたちに、『問い 向けワークショップでのこと。集中力 「象の鼻くそって、どこに溜まると思 動物園で実施された、ある子ども

ます。帰りの電車内でも、象の鼻く と一緒に吸ったり吹き出したりするの 外に気になることも次々生まれていき かな」といった仮説のほか、鼻くそ以 の間で「対話」が一気に広がりました。 しょう」「真ん中くらいに溜まって、水 「あの足では鼻の穴に指が入らないで 「先の方でないと、ほじれないのでは?」 この問いをきっかけに、子どもたち

遭遇したそうです。

され、その過程でお互いに対する理解 になりえる。まず最初に、そのこと づきや発見に発展することもあるで が生まれます。その結果、新たな気 よる主体的なコミュニケーションが誘発 や意見を生じさせます。そして、そ や思考を刺激し、その人なりの考え を強調しておきたいと思います。 すが、問いは「創造的対話」のトリガー ともあるはずです。後ほど解説しま しょうし、さらなる問いが生まれるこ れらが場に共有されることで、集団に 良質な問いは、問われた側の感情

# 創造的な発想や対話を阻害する 認識と関係性の固定化が

くて困っている」「エンジニアの頭が固く る私のもとには、「社員の主体性がな テーションの方法論について研究してい ワークショップデザインやファシリ

その話を続けている親子に塩瀬さんは





くは、 まざまな相談がもち込まれます。 病い」と呼んでいます。 ることが多いからです。 織には、 クを紹介するだけで問題が解決する が、研修で最新のビジネスフレームワー て斬新なアイデアが出ない」など、 ことはまずありません。 人間の「認識と関係性が固定化する 、処方箋、の提供を求められるのです 私たちがもつノウハウに期待し より根源的な問題が潜んでい それを私は、 そうした組 多 さ

れている状態 念)によって、 黙のうちに形成された認識(固定観 「認識の固定化」とは、 創造的な発想が阻害さ 個人の中で暗

定化し、 ションのタイプを4つに分けて確認して べき問題の本質を見失いやすいのです。 おきたいと思います(詳細は図1)。 に「こうあるべき」という規範から抜 て」と前提を疑うことがなくなり、 ケーションが阻害されている状態です。 い出すことが困難になります。 『が固定化されたまま関係性まで固 出せるか。その話の前に、コミュニケー この状態になると、「なぜ」「どうし 「関係性の固定化」とは、 こうした状態から、どうすれば抜 相互理解や創造的なコミュ 個 一人の認 解く 逆

# 1 しいかを決める話し合い。 「討論」…どちらの立場の意見が正

2 「議論」…合意形成や意思決定のた

> 結論を決めることが目的 の納得解を決める話し合いで、

3 れる、 意味づけをつくる話し合い 「対話」…自由な雰囲気の中で行わ 互いの理解を深め、 新たな

は違います。 4 生み出すことになるはずです。 ることで、 ことは大切です。 係のためには「雑談」は欠かせません。 められる典型ですし、 い直され、相互理解につながるのです。 相対化されることで、各自の認識が問 ずとも進められますが、対話の場合 たり、 他の3つは、個人の暗黙の認識に迫る 結論を導く「議論」を、「対話」に変え かった「議論」と「対話」を使い分ける 認識が場に可視化されます。 を重視するため、 物事に対する各自の意味づけの共有 に揺さぶりをかけるのが「対話」です。 もちろん状況に応じて必要なタイプ このうち、 れる気軽な挨拶や情報のやりとり。 ただ、あまり意識されることのな 「雑談」…自由な雰囲気の中で行わ 互いの関係性を編み直したりせ 相互理解や新たな意味を 裁判などは「討論」が求 認識と関係性の固定化 一人ひとりの暗黙の 時間的制約の中で 円滑な人間関 それが

# なぜ今、 創造的対話 、求められるのか 」とは何か

対話について、 もう少し深掘りして

みましょう。 厳密には、 つながります。 がなされているのか理解を深めること ず、 イデアが創発する対話のことを、 新たな意味を発見することがありま 保持していなかったお互いに共通する 前提を相対化 を重視します。 なる意見に対して早急な評価を下さ 創造的対話」と呼んでいます。 どのような前提からその意味づけ こうした新たな意味づけや、 それ以前の、 対話では、 į その結果、 それは、

話」として区別しています。 たときに)起こる対話を「創造的 知ろうとする対話を「探究的対話 その結果(または、 理解することにも 自分とは 互いを深く 自分自身の うまくいつ 以前には より 私は ア 異 う。 せん。 来、 あ 目として対話が必要になるのです。 な課題は、 けれど、よく言われるように、 互. 定の角度で思考することを強いられ 各論的発展を遂げた結果、 どこも分業体制がとられています。 はキャリアの観点から考えてみましょ 切り口はいろいろありますが、ここで 士が協力しないと解決できないし、 ノベーションも起こりません。 いにわかりあえなくなっています その創造的対話がなぜ必要なのか。 学びは全体性のある営みなのに、 ただ、高校生にとって難しさが (株)MIMIGURI Co-CEO 決して高度なことではありま 自体は極めて原初的な営みで 代の組織は専門分化が進み、 東京大学大学院情報学環 特任助教 異なる専門性をもつ人同 特性助教。商品開発、人材育成、地域流性化などの 産学連携プロジェクトに取り組みながら、多様なメン バーのコラボレーションを促進し、創造性を引き出すワ ークショップデザインとファシリテーションの方法論に ついて研究。(株)ミクリデザインCEOを経て、 2021年3月より(株)MIMIGURI Co-CEO。 その 誰もが 現代的 本 取材・文/堀水潤一 撮影/平山 諭

# 相手に関心をもたない 対話が起こらない最大の理由

ے

ただ、 れば無

どうせなら楽しくあ 、理をする必要はあ

ŋ

りませ

どうすれ ば創 造的 対話は起こるの

心をもつことが第

忠

成果を出したい」と思うのならば

逆に言えば、 対話をコントロールしにくい。 くいのです。 勢をもつことは、 伴わない思 異なる他者に対する想像力も働きに ションが不足していること。 係や進路選択にもつながるでしょう。 合うことになるため、 大切にしているのか」といったリフレク 春期特有の揺らぎもあり 加えて、 この年代から対話の姿 他者や自 よりよい人間関 思考と言動が 1分に向 そのため けれど、 3

にそれ。

人に対する想像力が欠けた 割で見ているときなどはまさ

状態が対話の最初のボトルネックです。

たまたま同じ組織に配属されただけ

人と関係を築きたくない」というの

あ るとすれば、「自 分は何者で、 何

関

「心をもてないからです。「´´営業、が

何

か言ってきた」など、

人を個人では

役

### 図1 コミュニケーションの4つのタイプ

### 討論 debate

あるテーマに対して、異なる意見の立場に分かれ、意見を述べ 合い、どちらの意見が正しいかを決めるコミュニケーション。最 終的に結論となった主張に、その場にいる全員が納得すると は限らない。勝ち負けがはっきりし、論理的に正しい特定の誰 かの主張が結論として採用され、反対意見をもっていたが、うま く主張が通せなかった誰かが「討論に負ける」ことがありえる。

### 議論

あるテーマに対して、関係者の合意形成や意思決定をするた めの話し合い。論理的な話の道筋や、主張の正しさ、効率性 が重視され、コミュニケーションを通して「結論を決める」ことが 目的。討論とは違って、勝ち負けを決めるよりも、全員で協力を しながら納得のいく「答え」を導くことに主眼が置かれる。

# 対話

ため、

ここでは逆に、

対話が起こらな

上

研

修に多くのヒントがあった

理由

から考えたいと思います。

私の経験上、

最大の理由は、

相手に

あるテーマに対して、自由な雰囲気の中、それぞれの「意味づ け」を共有しながら、お互いの理解を深めたり(お 新たな意味づけをつくりだしたり ) するコミュニケ ーション。議論や討論と異なり、正しさや勝ち負けはないため、 他者を打ち負かそうとしたり、答えを導こうとする必要はない。

# 雑談

対話と同様に自由な雰囲気の中で行われるが、もう少しカジュ アルなコミュニケーションを指す。お互いの価値観や意味づけ の共有までは踏み込むことなく、気軽な挨拶や情報のやりとり によって成立。関係構築が目的の場合もあれば、目的そのもの がない場合もある。

同

じ

関心でも、

好

奇

心寄り

Ó

関

『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』安斎勇樹・塩瀬隆之著(学芸 出版社)と安斎氏への取材をもとに編集部にて作成。

# 本音や 加 者に創造的な対話を促し 価 値 |観に迫る「問い」の力

せるか くについて考えてみたいと思います。 は、 創造的対話のファシリテーショ どうす れば生 一徒に対話 を 促

いるのですが、 担当者には ちゃ とはあるでしょう。 い意味の関心はもてない人に対しても ますよね。 段 心寄りの関心へ転換するチャンスです。 方が変わるときがある。 れならわからないでもないな」と、 「なぜそんな態度をとるのか」と考え なんかイライラする」など気になるこ その点、 が既に埋め込まれていると思います。 揺さぶる。 間 語 いい奴だな」と気づくことがあ 話さないクラスメイトと接し、 困りごと寄りの関心があります 関係を編み直す絶好の機会。 で言えばinterestとconcern。 ふと「こういうことかな。 「文化祭理論」と説 文化祭などの学校行事 日常の人間関係は非 この転換を企 学校の中には、 そこで終わらせず そこが好 一業の 格好 明 人事 H 「めつ 見 良 ŋ 普 奇 そ は 0

盛

れた問 ター も問 11 が共有されているかをモニター 11 ではありません。 ガ 対 を起点あるいは媒体として、 もあるでしょう。 ?一になる」と述べましたが、 話の場をつくることがファシリ 冒 ・の腕の見せ所です。 いはファシリテーター 頭 いや、 問 いは、 何となく場に生まれた問 参 創 今、 加者から発せら 造 的 どう がつくるもの 対 話 いう問い 必ずし 創造: Ļ のトリ テー 間

思考)、 き例 を自 に投げかけることで(素朴思考)、 としたら何でしょう?」と揺さぶるこ うですよね」で終わりがち。 修でよくあるような一 支配されているとき。 識の固定化を揺さぶるのです。 た視点から物事を捉えるとか れつて本心ですか?」 る思考法が役立ちます。 %なのは、 どういう問いを投げかけたら対話 りあがるかは、 は えば 分ごと化すること」という合意形 聞こえはいいですが、 ふと湧いた疑問をストレー 「〝自分ごと化〟を言い換える 場が ″優等生的 問題の本質を など、 「大切なのは課 例えば企業 例えば、「 √な言葉で 「まあ、 ひねく そんなと (天邪 特に有 そ そ 認 研 鬼 題

効

# 対話の中で関係性は編み直されていく いによって個 人の 認識 は揺さぶられ、

問

共に育みたい、自分らしさを発揮する力と

他者と一緒に新しい何かを生み出す力

Lecture 問いが誘発する「創造的対話」

迫れるかもしれません。 とで、本音やその奥に潜む信念にまで

き換えていくことが有効です。 うな大きな主語ではなく、「あなたは 起きるのは考えもの。そういう場面で こととは思いません。けれど、規範的 存在や、 の後で、少しずつ主語を高い次元に置 どうしたいの?」といった「私」を主語 は、「このクラスはどうあるべきか」のよ された生徒もいます。 きも同様です。教室にはリーダー的 に語れる問いを放つといいでしょう。 な役割が入りすぎ、 参加者が規範に縛られすぎていると ある程度役割を演じることを悪い 場を盛り上げることを期待 本音との乖離が そうした生徒 そ

ける問いかけや課題のこと。 ガーと言えるでしょう。 が多く、 解や考えを深めるべきこと)を知る先 らいを達成するために、生徒に投げか の違いについて。発問とは、授業のね 最後に、ここでいう「問い」と「発問 知らない生徒に投げかけること 生徒に思考を促す際のトリ 答え(正

シリテーターも参加者も、 方、対話の場における問いは、 その時点で ファ

> 思う?」と返したのです。 答えをもちません。 と関心を寄せてきたとき、 瀬さんはもち合わせていませんでした。 るのか」という問いも、 促すトリガーとして存在するのです。 参加者に方向を示し、 子どもたちが「えっ、どこなの?」とぐっ と関係性の固定化の病いに陥っている 「俺もわからないんだよね。 冒 **エ頭の「象の鼻くそは、どこに溜ま** あくまで、 その答えを塩 創造的対話を どこだと 平然と、 認識

こそ、 対話し続けることができたのでしょう。 も重要と思えてなりません。だから むしろ、これらの方が問いの内容より いことを問うていることと、「自分もわ 良質な問いの例としてご紹介しました。 からない」と素直に伝えていること。 しかし考えてみると、答えがわからな このエピソードを、対話を誘発する 子どもたちは自由に思考し、

# 自分らしさはより活かされる 他者との関わりを通じて

話が必要なのか。 シ和泉はこうまとめました。 「なぜ対 誌上研修の最後に、ファシリテーター それは共に生きる

> のインタビューも、それできれいに締め ることはできますが、少しだけ ため」と。その通りだと思います。 本音を加えさせてください

るようになり、 とをし続けることも難しい。 ません。隔絶された状況で、新しいこ だ、学習って根源的には一人ではでき そのために学び続けてきました。た の時々にしたいことをするタイプ。 です。人とわかりあいたいとか、 いるためかよく誤解されますが、 人生が豊かになったと思っています。 は叶わぬこともできるようになったし、 た瞬間に会社を設立。結果、 分とは違う考えをもつ人たちと関わ しいことに挑むことが何より楽しく、 的に何かをするよりは、 、対話の人間、ではなく、、学習の人間 ワークショップデザインを専門にして 博士論文を書き上げ 自分が、そ そこで自 一人で 利他 私は

段が「創造的対話」なのだと思います が自分らしさを最大限発揮できる力 にとってもハッピーにつながる。 生み出せるスキルをセットで磨くこと 会は、それだけでは完結しません。 を身につけることは大切です。 重なる部分もあります。子どもたち ますが、先ほどのキャリアの考え方と 今の話は、 その人にとっても、共に生きる人 他者と一緒に新しい何かを 個人的なことではあり でも社



問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション (安斎勇樹・塩瀬隆之 著/学芸出版社)

組織開発、学校教育、地域協働など、さまざま な場のワークショップにおいて創造的対話を引 き出す「問い」に注目し、ファシリテーターに必 要な思考とスキルを事例を交えながら解説。

